

## 那覇市国際通りニライカナイプラン ~ 沖縄文化の視点からの街づくり~

The Nirai-Kanai plan of Kokusai-dori Street, Naha  
- Urban planning from the viewpoint of the Okinawa culture -

高知工科大学大学院 工学研究科 基盤工学専攻 社会システム工学コース 1055135 大久保 圭

## 1. 沖縄における「場所の力」「共生」の視点

## 1.1 「場所の力」の視点

従来の街づくりは、産業・経済を優先に行われ、また、都市計画法や建築基準法に代表される法制度を頼りに、全国一律の基準にしたがった画一的な手法でつくられたために、全国どこへ行っても同じような街が出現して地域の個性が失われてきた。このような状況から、現在では地域からの発想を大切に住民参加による街づくりの重要性が認識されるようになってきている。

「場所の力」とは、歴史的に連続と続くその場所に関わる市民一人ひとりの生活によって紡ぎだされる社会的な記憶の集積である。そしてその場所に秘められた力を顕在化させ、市民自らがアイデンティティを持つことにより、都市生活の意味や可能性を再考していくことが必要である。〔ドロレス，2002：24-36〕

## 1.2 「共生」の視点

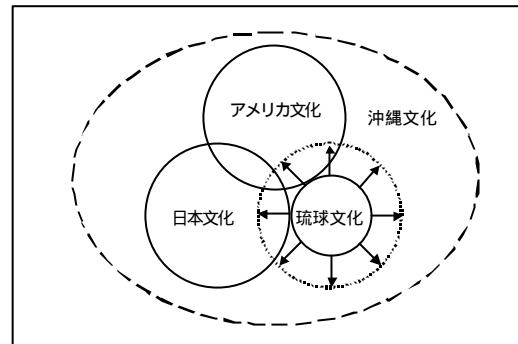
近年の沖縄文化は、国や基地への依存型経済の影響からか、急速にヤマト化、アメリカ化しており、那覇市国際通りは、その典型的な一例である。これは文化の視点からいえば極端な「同化」の進行であり、琉球文化は肥大化してきたアメリカ文化・日本文化によって独自性を喪失する可能性が高くなっている(図1参照)。

「共生」とは、『沖縄文化』は内包する琉球文化・アメリカ文化・日本文化という異質な文化の「差異」を認めながら、自由と平等の理念に基づく「共生」による新しい価値観を導く視点のひとつである。

## 1.3 本計画における街づくりの視点

したがって本計画は、この「場所の力」と「共生」

図1 現代の沖縄文化の状況と本計画の視点



の視点をを用いる。琉球文化の独自性を拡大すること(場所の力)により、チャンプルー文化(共生)としての新しい沖縄文化を創出することを重点として、那覇市国際通りの計画づくりを行う。

## 2. 那覇市及び国際通りの位置と課題

## 2.1 那覇市の位置と課題

## 2.1.1 主要統計からみた那覇市の位置

主要統計からみる那覇市は、沖縄県のなかでも重要な役割を担い、特に第3次産業の就業者数は沖縄県全体の4分の1を占める規模を誇っている(表1参照)。

表1 那覇市の主要統計

主要指標	沖縄県	那覇市	市/県
面積(km <sup>2</sup> )	2271.3	38.63	1.70%
人口(人)	1,318,220	301,032	22.80%
世帯数(戸)	446,286	111,788	25.00%
高齢者人口比率(%)	13.80%	14.00%	-
第1次産業就業者数(人)	34,156	944	2.80%
第2次産業就業者数(人)	104,221	17,338	16.60%
第3次産業就業者数(人)	412,355	105,007	25.50%
小売商店数(戸)	17,904	5,004	27.90%
従業者数(人)	69,959	19,917	28.50%
販売額(百万円)	963,453	281,724	29.20%
卸売商店数(戸)	3,302	1,188	36.00%
従業者数(人)	27,561	9,433	34.20%
販売額(百万円)	1,545,852	639,160	41.30%

### 2.1.2 観光からみた那覇市の位置

那覇市は空港・港湾の拠点性を擁することから、沖縄の玄関として、観光ショッピングの拠点として沖縄観光の中心的な役割を果たしている。平成12年の那覇市の入域観光客は425万人あまりとなり、平成元年と比較すると62.5%と激増している。このような伸びの増加要因としては、低料金のバック旅行の増加、修学旅行などの需要の掘り起こしや、新規航空路線の開設、那覇まつり、NAHAマラソンなどイベントの定着などが考えられる。また、首里城等が2000年11月にユネスコの世界遺産に登録されたことも挙げられる。

### 2.1.3 観光的視点からみた那覇市の課題

#### (1) 玄関口の整備

那覇市は、那覇空港と那覇港という沖縄県の玄関口をもち、沖縄への旅行者のほとんどが那覇を訪れることになる。したがって那覇市には、旅行者が求める沖縄らしさが求められる。

#### (2) 県都としての中心性の強化

近年、全国の都市でみられるように、那覇市においても同様にモータリゼーションにより北谷町のハンビータウンのような商業施設が周辺市町村へ流出しており、中心市街地の活性化が求められている。

#### (3) 沖縄の顔としての県都の形成

人口の減少は商業の停滞につながり、またそれによって様々な集客施設も郊外へ流出することから、人々の交流の機会も減少する。那覇市は、観光と住民の生活の両面からみても重要な都市であり、沖縄の顔としての県都の形成が求められる。

### 2.2.1 国際通りの位置

国際通りは、那覇空港から東に約4km、那覇市のほぼ中央に位置する。那覇市の中心的な商業地域である。国際通りの周辺には、マチグラーと呼ばれ親しまれている市場や、壺屋焼で有名な壺屋などがあり、近代化した国際通りとは違う一面もある。しかし、昭和62年に全面返還された在沖米軍基地跡地に整備されつつある新都心へと、集客施設の流出が続いている。

### 2.2.2 国際通りの課題

#### (1) 都市機能の流出による空洞化

国際通りは、戦後那覇市の復興の象徴的な通りであり、沖縄を代表するシンボルである。観光客の多くも国際通りを訪れ、マチグラー等の南国の雰囲気を楽しんでいる。

しかし、近年の新都心の開発により、一大商業地であったこの通りも約1割が空き店舗となっている。

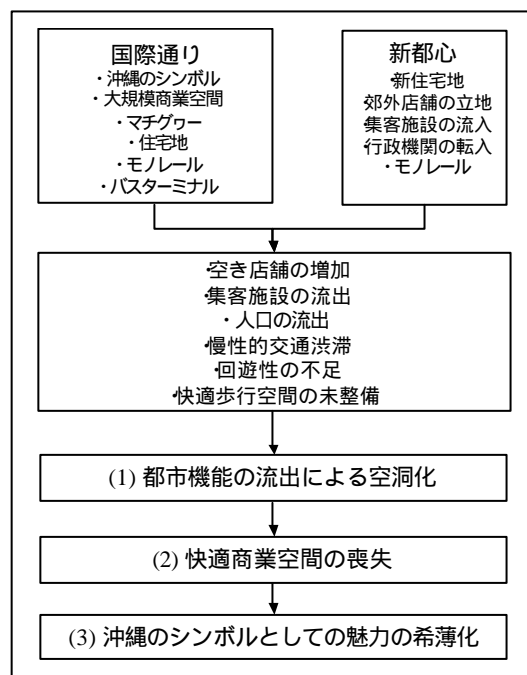
#### (2) 快適商業空間の喪失

国際通りには、マチグラー等の沖縄特有の商業空間が一部残っているものの、その多くは経済優先で、ゆとりの少ない空間となってしまっている。また、慢性的な交通渋滞により、排気ガス、騒音による快適な歩行空間が形成されていない。さらに、回遊性の不足が指摘されている。

#### (3) 沖縄のシンボルとしての魅力の希薄化

「奇跡の1マイル」と呼ばれ、発展してきた国際通りも、周辺地域への流出により、住民からも観光客からも魅力を喪失しつつある。それは、沖縄らしさと賑わいが交錯するような魅力が減少しつつあるためといえる。

図2 国際通りの課題



### 3. 沖縄文化の視点からの街づくりの方向

#### 3.1 沖縄人気を生かし、沖縄の人材を活用する

沖縄にはチャンプルー文化という独特の文化がある。さらに、沖縄への観光客の増加にみられるように沖縄人気は上昇している。最近では県外における「沖縄病」と呼ばれる沖縄のファンになってしまった人たちも増えている。これを生かす街づくりを行う。

沖縄県の平成 13 年度の完全失業率は 8.4%と全国平均の 4.9%を大きく上回っている。しかし、この余剰人材の中には沖縄文化の担い手も多く、これらの人材を利用し、沖縄文化をより発展させる。

沖縄文化の発展は、さらなる沖縄ファンを生み、観光客の増加、商業の発展、さらに地域への愛着へとつながる。

#### 3.2 沖縄らしい生活拠点をつくる

国際通りの生活拠点の活性化を推進するためには、新都心とは異なる魅力をもたせることが必要である。そこで、那覇市の復興の歴史を物語る存在として、国際通りを『沖縄のシンボルとなる街』として再構築し、沖縄の庶民の『生活に密着した街』を形成する。

さらに、住民と観光客等の来街者とは「集い」「楽しむ」ことができる『交流がある街』をめざし、誰にも安心して歩ける『快適に歩ける街』を形成する。

#### 3.3 沖縄文化を重視した観光拠点化を図る

沖縄観光は、余暇時間の増加や航空料金の低下などを追い風に、今後さらに増加傾向にある。さらに、リゾート中心であった沖縄観光は、観光客のホンモノ志向と全国的に増えつつある沖縄病患者のニーズにより、ホンモノの沖縄を体験するということに変化してきている。

ホンモノの沖縄を体験するために求められるのは観光客のための街ではなく、住民の生活に密着した街である。そうした街を形成すると、「住民」「観光客」「事業者」「来街者」が集う街に発展し、地域と観光客のニーズに応えられる街となる。

この観光拠点は、商業の活性化をもたらす、雇用の増大させる。これを、さらなる沖縄文化の発展へとつな

げる。

### 4. 那覇市国際通りニライカナイプラン

#### 4.1 世界のニライカナイへ

ニライカナイとは沖縄地方で信じられている楽土、桃源郷であり、海上や海底にあるとも、地の底やはたまた天空にあるとも言い伝えられ、人びとは理想の邦への憧れや豊穡の感謝をもって接してきた。

本計画は、沖縄の象徴的存在ではあるが、現在は周辺地域におされ競争力を失いつつある国際通りを、現代の「ニライカナイ」とするため、『沖縄の顔となり、様々な交流が発生する街の形成』を目的に、「ニライカナイプラン」を策定する。

#### 4.2 ニライカナイプランへむけての方針

現代の「ニライカナイプラン」は、那覇市国際通りの独自性を伸ばし、日本の人びとのみならず、アジアを始めとする世界の人びとが、憧れる街となるようにする。

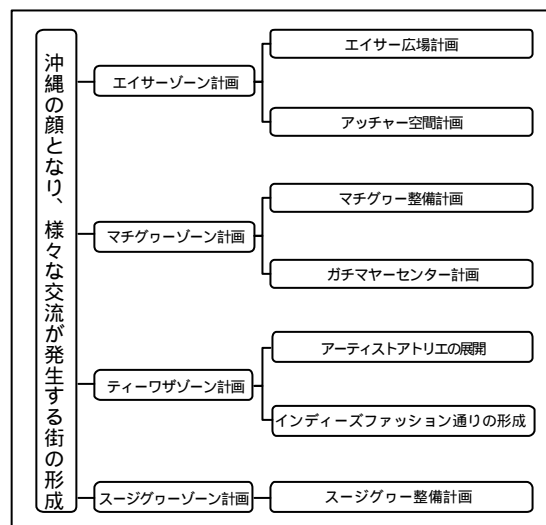
##### ニライカナイプランへむけての方針

- ・ 生活に密着した街づくり
- ・ 沖縄のシンボルとなる街づくり
- ・ さまざまな交流のある街づくり

#### 4.3 那覇市国際通りニライカナイプランの体系

ニライカナイプランは、4つゾーンと7つの計画を行う。

図3 ニライカナイプランの体系



#### 4.4 国際通りニライカナイプラン全体計画

那覇市国際通りニライカナイプランの全体計画は、表2のとおりであり、全体の配置は、図4のとおりである。また、観光面からみた各ゾーンの位置づけは図5のとおりである。

表2 国際通りニライカナイプラン全体計画内容

計画	内容	整備事項
快適商業空間整備	アミューズメント性、文化性、情報発信性等の多面的な機能の創出し、「生活に密着」し、さらに「沖縄のシンボル」となる快適商業空間の整備を行う。	・商業基盤施設を誘致する。 ・文化施設を設置する。 ・コミュニティ施設を設置する。
歩行空間整備	来街者や身体障害者など、誰にでも歩きやすい歩行空間の整備を行う。	・観光情報を含む誘導サインを設置する。 ・ポケットパークの設置。 ・電柱を地中化する。 ・電灯を設置する。 ・ベンチを設置する。 ・カラー舗装を整備する。
交流空間整備	公共施設整備計画との連携を図り、利便性とコミュニティ性を考慮した「交流」を柱とした整備を行う。	・空き地、空き店舗をりようした、交流空間の整備。

図4 国際通りニライカナイプランの全体図

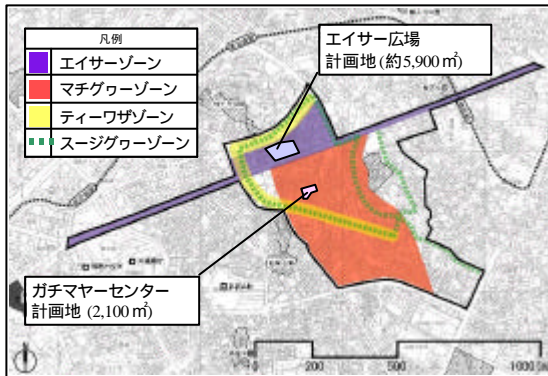
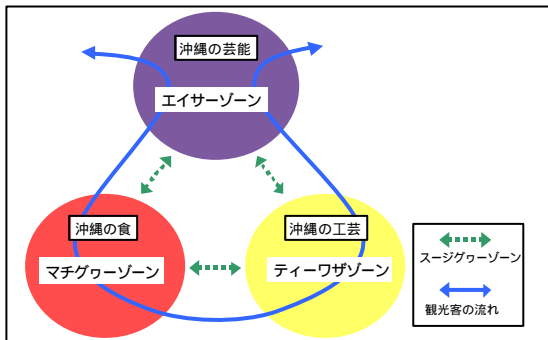


図5 観光面からみた各ゾーンの位置づけ



#### 5. ゾーン別計画

##### 5.1 エイサー（踊り）ゾーン計画

###### (1) エイサーゾーン計画のねらい

- ・エイサーに代表される沖縄の芸能を体験できる空間整備をする。
- ・沖縄の芸能の発信地となる地域の顔の役割を果たす通りを形成する。
- ・エイサー、カチャーシーが踊れる空間を整備し、エンターテインメント性を強化する。
- ・快適な歩行空間を整備し、国際通りの商業空間の魅力と集客力を向上させる。
- ・来街者（観光客）と地元との交流を図り、賑やかな通りを形成する。

###### (2) エイサーゾーン計画内容

###### エイサー広場計画

那覇市牧志1丁目 旧沖縄山形屋跡地

エイサー広場計画では、表3の4つの施設を設置する。ここでは、沖縄の芸能の発信地としての機能をもたせ、このゾーンの核として整備する。

表3 エイサー広場計画内容

計画	内容	整備事項
エイサー広場	イベント・祭り等で、エイサー、カチャーシーが踊れる広場を整備し、平時は露店を出店させ、店舗を持たないアーティストと消費者のコミュニケーションが図れる空間とする。	・石畳とする。 ・街路樹はデイゴとする。
アシピナーセンター	沖縄の芸能を発展させる核として、また発信する核として利用度の高い施設を設ける。	・多目的ホール（100席） ・スタジオ、練習ホール（2室） ・コミュニティFM施設 ・各種店舗の設置
アマハジ広場	市民や観光客が屋外での食事・休憩等ができるよう沖縄の住居に見られる広い庇を持つ東屋で日陰をつくる。	・テーブル、ベンチを設置する。 ・水道の設置する。
ブーゲンビリア広場	パーゴラによる日陰を設置する。	・ブーゲンビリアのパーゴラを設置する。

図6 エイサー広場計画地現況図

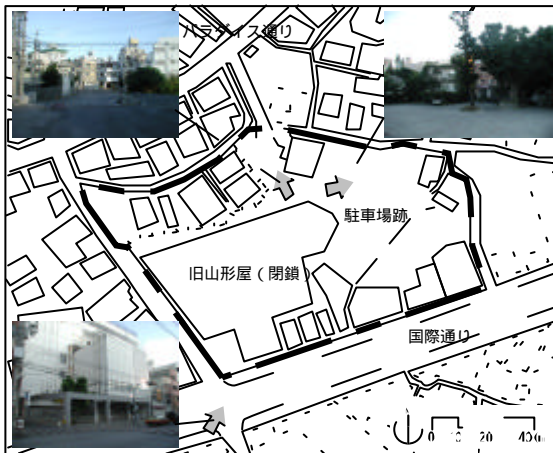
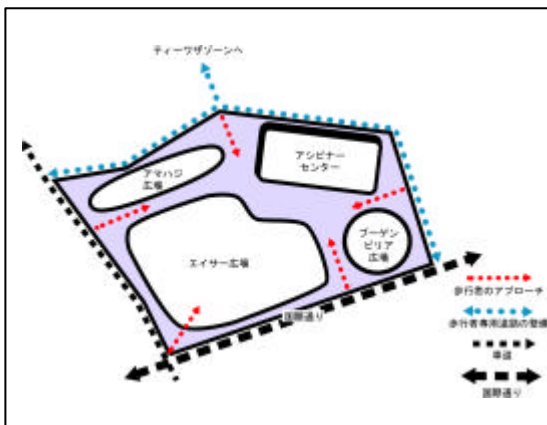


図7 エイサー広場計画のゾーニング図



アッチャー（歩行者）空間整備計画

那覇市国際通り

アッチャー空間整備計画は、表4の2つの整備を行う。沖縄の目抜き通りとして、地域の核となる快適歩行空間へと整備する。

表4 アッチャー空間整備計画内容

計画	内容	整備事項
歩道	地域の顔となる通りとしてトランジットモール化による快適な歩行空間を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインを基本とする。</li> <li>石畳とする。</li> <li>街路樹はデイゴとする。</li> <li>電柱を地中化する。</li> </ul>
（低床式路面電車） LRV	LRVを導入し、那覇バスターミナルと新都心を結ぶ。停車場は国際通りの主要施設の前に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可車両（搬入車）以外、終日乗り入れ禁止（歩行者天国）とする。</li> </ul>

5.2 マチグラー（市場）ゾーン計画

(1) マチグラーゾーン計画のねらい

- ・沖縄の食文化を体験できるゾーンとする。
- ・沖縄のもつマチグラーを活かした整備を行う。
- ・観光客や修学旅行生などが沖縄の食文化を体験できる施設を配置する。
- ・誰でも入りやすいゾーンとし、集客力を高める。
- ・地元のおジィ、オバアとの交流が楽しめる街にする。

(2) マチグラーゾーン計画内容

マチグラー整備計画

マチグラー整備計画では、表5の整備を行う。国際通りの魅力の一つであるマチグラーであるが、内部は迷路のように入組んでいる。初めて訪れる人も安心、快適に買い物ができるように整備する。

表5 マチグラー整備計画

計画	内容	整備事項
誘導サイン	迷いやすいマチグラーを歩きやすいように、誘導サインを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光情報を載せた誘導サインの設置する。</li> <li>ユニバーサルデザインを基本とする。</li> </ul>
空き店舗の利用	空き店舗を利用したマチグラーのおジィ、オバアと観光客が交流できるスペースや、ギャラリーを設置する。買い物に疲れても休憩でき、ウチナータイムを体験できるスペースを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き店舗利用による休憩スペースを設置する。</li> <li>ギャラリーを設置する。</li> </ul>

ガチマヤー（食いしん坊）センター計画

那覇市牧志2丁目 旧第2牧志公設市場跡地

ガチマヤーセンター計画では、沖縄の食を体験するための施設を計画する。センター施設に調理実習室を設けることにより、食べるだけではなく、食材からつくるところまで体験できる施設となっている。

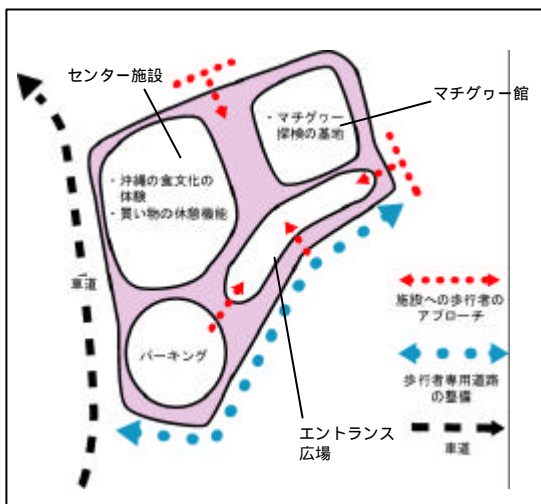
表6 ガチマヤーセンター計画内容

計画	内容	整備事項
センター施設	「沖縄の食文化の体験」を柱に観光客、修学旅行生などが沖縄の食材および料理について体験学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習台 10 程度の調理室実習室を設置する。</li> <li>・50 席程度の食堂を設置する。</li> <li>・沖縄の料理屋食材を紹介するコーナーを設置する。</li> </ul>
	「買い物の休憩機能」を柱に休憩ができるカフェや荷物を預けて買い物ができるコインロッカーを設置する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マチグー歴史コーナーを設置する。</li> <li>・マチグー案内コーナーを設置する。</li> </ul>
マチグー館	「沖縄のマチグー探検の基地」を柱に迷路のように入組んだマチグーの見所を紹介、マチグーの歴史の学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェを設置する。</li> <li>・コインロッカーを設置する。</li> </ul>

図8 ガチマヤーセンター計画地現況図



図9 ガチマヤーセンター計画ゾーニング図



### 5.3 ティーワザ（工芸）ゾーン計画

#### (1) ティーワザ計画のねらい

- ・沖縄の工芸（焼物、琉球ガラス、漆器、紅型、織物、銀細工）とTシャツアート等のファッションをテーマとした若者を対象とした通りを形成する。
- ・現在の空き店舗の解消のため、若いインディーズファッションの店舗や、アーティストのアトリエ兼店舗として定着させる。

#### (2) ティーワザゾーン計画内容

##### アーティストアトリエの展開

沖縄は、「芸術の島」と呼ばれるほど、さまざまな芸術価値の高い工芸を生み出してきた。沖縄の工芸芸術をさらに高めるためにも、若いアーティストを育てる地盤づくりが求められる。その核となるアトリエ群を、空き店舗を利用し展開させる。

表7 アーティストアトリエの展開

計画	内容	整備事項
アーティストアトリエ	沖縄の工芸をつくるアーティストのためのアトリエを空き店舗を利用し展開させ、市民や観光客などがアーティストと交流する空間とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的には既存の空き店舗を利用する。</li> <li>・アーティストのためのギャラリーを設置する。</li> <li>・製作風景が通りから見えるように配慮する。</li> </ul>
沖縄工芸紹介	実物の工芸品と映像を用いて沖縄の工芸を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室と映像室をわける。</li> <li>・座席 20 程度とスクリーンを設置する。</li> <li>・落ち着いた雰囲気にする。</li> <li>・休憩スペースも設ける。</li> </ul>
工芸製作体験	工芸製作を体験できるスペースを設置し、沖縄の工芸をより深く体験できるように図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸ごとにスペースを設ける。</li> </ul>

##### インディーズファッション通りの形成

現在、ティーワザゾーン地区に、若い店主による若者向けファッションの店が建ち並びつつある。この動きを助け、若者ファッションの発信地となるように、表8の整備を行う。



表8 インディーズファッション通りの形成

計画	内容	整備事項
ファッション通りの形成	若者のファッションの発信地となるインディーズファッションの通りを形成する。	・基本的には既存の空き店舗を利用する。
快適歩行空間	早く歩いて買い物ができる楽しさのある通りをめざす。	・石畳とする。 ・ポケットパークを設置する。 ・街路樹はデIGOとする。 ・電灯を配置する。 ・電柱を地中化する。

ソフト面からの仕掛けづくり

現在、空き店舗が目立つティールワザゾーンを、賑やかなゾーンとするために、表9のソフト面からの仕掛けづくりをおこなう。

表9 ソフト面からの仕掛けづくり

計画	内容	整備事項
空き店舗対策	空き店舗を減らし、にぎやかな通りを演出する。	・工芸のアーティストや若いファッション関連店舗の経営者の募集。 ・アーティスト、店舗経営者に対する店舗賃貸料の補助。
イベントの開催	工芸市、ファッションショーなどのイベントの開催。	・イベントを企画・運営する団体の育成。 ・イベント開催費の補助
情報の発信	工芸、ファッション、イベントの情報を発信する。	・アンテナショップを設置する。 ・web等で情報を発信する。
工芸者の育成	工芸の製作を観光客等に指導できる人材の養成、確保。	・工芸のアーティストからの募集。 ・養成講座の開催。

5.4 スージグワー（路地）ゾーン計画

(1) スージグワーゾーン計画のねらい

- ・歩行者の国際通りと周辺の通りとの回遊性を向上させる。
- ・地域の人々が「コンタク」を楽しめるゆとりある道を創出する。
- ・地元根ざしたアーティストの発表の場となる道となるように、ベンチ、外灯等のストリートファニチャーには、アーティストの作品を配置する。

古くから沖縄の生活路であり、コミュニケーションの場であったスージグワーとして、国際通り一帯の回遊路を表10のように整備する。

表10 スージグワーゾーン計画内容

計画	内容	整備事項
車道および歩道	沖縄の古くからあるコミュニケーションの場であったスージグワーでさまざまな交流が発生する空間とする。	・石畳とする。 ・街路樹はデIGOとする。 ・ベンチを設置する。 ・サインの充実。
コンタク	コンタク（おしゃべり）ができる涼しい木陰をもつポケットパークを整備する。	・空き地の利用 ・四季折々の花が咲きそろうスペースとする。

おわりに

今回のニライカナイプランでは、コンセプト及び整備内容を計画した。残された課題としては、本計画を行うための事業可能性の検討（事業主体の設定、事業費の算出、事業プログラムの設定等）がある。

これらについては、沖縄のコンサルタントに就職し、沖縄のまちづくりを行っていくことが決定しており、これらは、私自身の今後のテーマとしたいと思っている。

参考文献

- ・粟田房穂（2002年）最先端観光企業・ディズニーテーマパーク 一色清『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・池澤夏樹（1992年）ニライカナイ ナイチャーズ『沖縄いろいろ辞典』新潮社 p90-91 猪爪範子（1989年）『まちづくり文化産業の時代』ぎょうせい
- ・大谷英人（2002年）『テキストまちづくり入門』若竹まちづくり研究所
- ・大濱聡（1998年）『沖縄・国際通り物語 - 「奇跡」と呼ばれた1マイル - 』ゆい出版
- ・寛計画編（2002年）『観光振興のための中心市街地活性化方策の検討調査報告書』寛計画
- ・酒田哲（1991年）『地方都市・21世紀への構想』日本放送出版協会
- ・白幡洋三郎（2002年）都市観光古代ギリシャからの観光の王道 一色清『AERA Mook 観光学がわかる。』朝日新聞社
- ・高草木光一（1999年）共生空間の変容 慶応義塾大学経済学部編『変わりゆく共生空間』弘文堂 序論：3-22
- ・ドロレス・ハイデン（2002年）『場所の力』学芸出版社
- ・那覇市企画部文化振興課（1987年）『那覇市史 資料篇第3巻1 戦後の都市建設』那覇市役所
- ・比屋根照夫（2000年）近代沖縄における同化と自立 太田朝敷・伊波普猷を中心に 慶応義塾大学経済学部編『マイノリティからの展望』弘文堂 第部：157-176
- ・和宇慶朝太郎（1999年）『近世・近代那覇における商空間の成立と展開に関する研究』和宇慶朝太郎

## Abstract

Recent state in Japan, when we visit somewhere, there are many urban cities that have same kind of design or planning. Therefore, almost urban city having been lost their property. Because, the conventional urban planning is performed to priority in “ Industry ” and “ Economy ” , and they are built with the uniform technique according to the Building Standard Law.

After that, because of such situations, it is emphasized the necessity of the urban planning by the citizens' participation or their way of thinking.

“ Historical power of place ” means that it is an accumulation of social memory that made from the individual life related to a place, historically. And, it needs to reconsider a possibility or meaning of urban life and have citizen ' s identity with clearing the original attract of the place.

“ Symbiosis ” means that the one of viewpoint that leads to new worth because of modern culture ' s “ assimilation ” based on freedom and impartiality while considering the difference of cultures, Ryukyu culture, American culture, and Japanese common culture.

However, recent Okinawa culture is rapidly changing to Tokyo-style or American style, like Kokusai-dori Street in Naha city. It means that it is the becoming “ assimilation ” , extremely; it is possible for Ryukyu culture to lose the originality because of the influence of expanding of American culture and Japanese common culture.

Therefore, the main topic in this research is that the restore of originality of Ryukyu culture and the progress of fascinating in Kokusai-dori street in Naha city by using “ Historical power of place ” and “ Symbiosis ”